

第143回 日商簿記検定試験 1級 一会计学一 解説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保证するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

第1問

- (1) 固定資産の減損に係る会計基準注解 注1 1.
- (2) 金融商品に関する会計基準 32
- (3) 1株当たり当期純利益に関する会計基準 20
- (4) 事業分離等に関する会計基準 16
- (5) 四半期財務諸表に関する会計基準 39

第2問

1. のれんに関する連結修正仕訳は、連結修正仕訳で計上する方法とのれんを子会社修正仕訳で計上する方法の2つがある。のれんをS社の修正仕訳で計上する方法は、S社の個別財務諸表上でのれんを計上し、それと同額の評価勘定を計上する。そのうえで、評価勘定と親会社の投資勘定とを相殺することにより、投資と資本の相殺消去を行う方法である。

(1) 子会社の資本の推移

	20X5 3月31日	20X6 3月31日
資本金	1,100千ドル	1,100千ドル
繰越利益剰余金	500千ドル	1,100千ドル
	+700千ドル (利益)	
	△100千ドル (配当)	
評価差額	300千ドル	300千ドル

(2) 支配獲得日の処理

① 子会社の資産の時価評価

(借) 諸資産	500千ドル	(貸) 繰延税金負債	200千ドル
		(貸) 評価差額	300千ドル

繰延税金負債：{3,600千ドル(支配獲得時の子会社の諸資産の時価) - 3,100千ドル(支配獲得時の子会社の諸資産の帳簿価額)} × 40% (実効税率) = 200千ドル

評価差額：{3,600千ドル(支配獲得時の子会社の諸資産の時価) - 3,100千ドル(支配獲得時の子会社の諸資産の帳簿価額)} - 200千ドル = 300千ドル

② のれんの計上

(借) のれん	990千ドル	(貸) のれん評価勘定	990千ドル
---------	--------	-------------	--------

③ 支配獲得時のS社の財務諸表(支配獲得時点では110円がCRであるため、CRと記載する。)

前期末貸借対照表 (単位：外貨額：千ドル、円価額：千円)

項目	外貨額	為替相場	円価額	項目	外貨額	為替相場	円価額
諸資産 のれん	3,600 990	110 CR 110 CR	396,000 **108,900	諸負債 繰延税金負債 資本金 繰越利益剰余金 評価差額 のれん評価勘定	1,300 200 1,300 500 300 990	110 CR 110 CR 110 CR 110 CR 110 CR 110 CR	143,000 22,000 143,000 55,000 33,000 **108,900
合計	4,590	—	504,900	合計	4,590	—	504,900

※1 247,500千円 - {1,300千ドル(子会社の資本金) + 500千ドル(子会社の資本金) + 300千ドル(子会社の評価差額)} × 60% (親会社の持分) × 110円(支配獲得時のCR) = 108,900千円

(3) 20X5年度末の処理

① 開始仕訳

(借) 諸資産	500千ドル	(貸) 繰延税金負債	200千ドル
		(貸) 評価差額	300千ドル
(借) のれん	990千ドル	(貸) のれん評価勘定	990千ドル

② のれんの償却

(借) のれん償却額	99千ドル	(貸) のれん	99千ドル
------------	-------	---------	-------

のれん償却額：990千ドル ÷ 10年(効果の及ぶ期間) = 99千ドル

③ 在外子会社の財務諸表項目の換算

当期末貸借対照表 (単位：外貨額：千ドル、円価額：千円)

項目	外貨額	為替相場	円価額	項目	外貨額	為替相場	円価額
諸資産 のれん	**4,200 891	120 CR 120 CR	504,000 106,920	諸負債 繰延税金負債 資本金 繰越利益剰余金 評価差額 のれん評価勘定 為替換算調整勘定	1,300 200 1,300 **1,001 300 990 —	120 CR 120 CR 110 HR — 110 HR — —	156,000 24,000 143,000 **112,915 33,000 108,900 **33,105
合計	5,091	—	610,920	合計	5,091	—	610,920

※2 3,700千ドル(当期末の諸資産の時価) + 500千ドル(支配獲得時の子会社の時価と簿価の相違額) = 4,200千ドル

※3 1,100千ドル(子会社の個別上の繰越利益剰余金) - 99千ドル(のれん償却額) = 1,001千ドル

※4 500千ドル(子会社の支配獲得時の繰越利益剰余金) × 110円(支配獲得時の為替相場) - 100千ドル(子会社の配当額) × 112円(配当時の為替相場) + 700千ドル × 115円(期中平均相場) - 99千ドル × 115千円(期中平均相場) = 112,915千円

※5 為替換算調整勘定の内訳

勘定科目		① 外貨額	② C R	③ H R又はA R	①×(②-③) 為替換算調整勘定
資本金		1,300千ドル	120円	110円	13,000千円
繰越利益剰余金	支配獲得時	500千ドル	120円	110円	5,000千円
20X5年度	利益(総額)	700千ドル	120円	115円	3,500千円
	のれん償却額	△99千ドル	120円	115円	△495千円
	配当金	△100千ドル	120円	112円	△800千円
評価差額		300千ドル	120円	110円	3,000千円
のれん評価勘定		990千ドル	120円	110円	9,900千円
合計		3,591千ドル			33,105千円

④ 投資と資本の相殺消去(以下、仕訳の単位千円)

(借) 資本金当期首残高	143,000	(貸) 関係会社株式	247,500
(〃) 利益剰余金当期首残高	55,000	(〃) 非支配株主持分当期首残高	92,400
(〃) 評価差額	33,000		
(〃) のれん評価勘定	108,900		

⑤ 当期純利益の按分

(借) 非支配株主に帰属する当期純利益	32,200	(貸) 非支配株主持分当期変動額	32,200
---------------------	--------	------------------	--------

700千ドル(当期純利益)×115円(期中平均相場)×40%(非支配株主持分割合)=32,200千円

⑥ 配当金の取消し

(借) 受取配当金	6,720	(貸) 剰余金の配当	11,200
(〃) 非支配株主持分当期変動額	4,480		

剰余金の配当: 100千ドル×112円(配当時の為替相場)=11,200千円

受取配当金: 11,200千円×60%(親会社持分割合)=6,720千円

非支配株主持分: 11,200千円×40%(非支配株主持分割合)=4,480千円

⑦ 為替換算調整勘定の按分

(借) 為替換算調整勘定	9,480	(貸) 非支配株主持分当期変動額	9,480
--------------	-------	------------------	-------

23,700千円(のれんの部分を除く為替換算調整勘定)×40%(非支配株主持分割合)=9,480千円

(4) 上記以外の解答の金額

- ① 為替換算調整勘定: 33,105千円(換算後の為替換算調整勘定)
 -9,480千円(非支配株主への振り替え)=23,625千円
- ② 非支配株主持分: 92,400千円(投資と資本の相殺消去)+32,200千円(利益の按分)
 -4,480千円(配当金の取消し)+9,480千円(為替換算調整勘定の按分)
 =129,600千円

又は

{1,300千ドル(資本金)+1,100千ドル(繰越利益剰余金)+300千ドル(評価差額)}
 ×120円(期末の為替相場)×40%(非支配株主持分割合)=129,600千円

第3問

1. 工事契約に係る認識基準

(1) 定義

工事契約に係る認識基準とは、工事契約に関して工事収益及び工事原価を認識するための基準をいい、工事進行基準と工事完成基準とがある。

(2) 適用関係

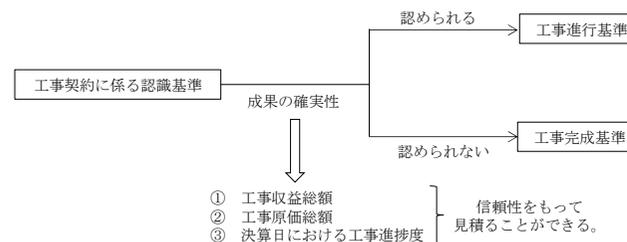
工事の進行途上において、その進捗部分について成果の確実性が認められるか否かにより分類する。

- ① 成果の確実性が認められる場合・・・「工事進行基準」を適用する。
- ② 成果の確実性が認められない場合・・・「工事完成基準」を適用する。

(3) 成果の確実性

成果の確実性が認められるためには、次の各要素について、信頼性をもって見積ることができる。

- ① 工事収益総額・・・施工者が受け取る対価の総額
- ② 工事原価総額・・・施工者が義務を果たすための支出の総額
- ③ 決算日における工事進捗度



2. 工事進行基準

(1) 定義

工事進行基準とは、工事契約に関して工事収益総額、工事原価総額及び決算日における工事進捗度を合理的に見積り、これに応じて当期の工事収益及び工事原価を認識する方法をいう。

(2) 決算日における工事進捗度の見積方法

工事原価総額について信頼性をもって見積り、原価比例法を採用する場合には、通常、決算日における工事進捗度も信頼性をもって見積ることができる。ここで原価比例法とは、決算日までに実施した工事に関して発生した工事原価が工事原価総額に占める割合をもって決算日における工事進捗度とする方法

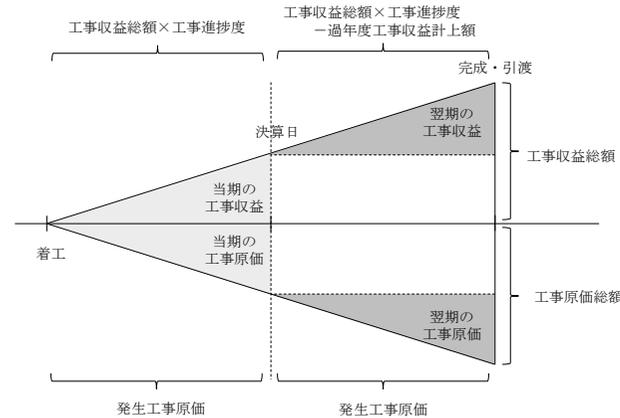
$$\text{工事進捗度} = \frac{\text{決算日における工事原価累計額}}{\text{工事原価総額}}$$

(3) 工事収益及び工事原価の計上額

- ① 初年度
 - i 工事原価: 発生工事原価
 - ii 工事収益: 工事収益総額×工事進捗度
- ② 翌年度以降
 - i 工事原価: 発生工事原価
 - ii 工事収益: 工事収益総額×工事進捗度-過年度工事収益計上額

(4) 見積りの変更

工事収益総額、工事原価総額、決算日における工事進捗度の見積りが変更された時には、その見積りの変更が行われた期に影響額を損益として処理する。



4. 各年度の各金額

	20X1年度	20X2年度	20X3年度	20X4年度
①工事進捗度	21%	48%	77%	100%
②工事収益	10,500百万円	13,500百万円	15,270百万円	11,730百万円
③工事原価	9,240百万円	12,840百万円	17,960百万円	11,960百万円
④工事損失引当金繰入	—	—	230百万円	—
⑤工事損失引当金戻入	—	—	—	230百万円
⑥工事利益	1,260百万円	660百万円	△2,920百万円	0百万円
⑦工事未収入金	—	—	1,270百万円	—
⑧工事前受金	2,000百万円	1,000百万円	—	—
⑨工事損失引当金	—	—	230百万円	—

(1) 20X1年度の各数字

- ① $9,240 \text{百万円} / 44,000 \text{百万円 (工事原価総額)} \times 100\% = 21\%$
- ② $50,000 \text{百万円 (工事収益総額)} \times 21\% = 10,500 \text{百万円}$
- ⑧ $12,500 \text{百万円 (工事代金受取額)} - 10,500 \text{百万円 (工事収益)} = 2,000 \text{百万円}$

(2) 20X2年度の各数字

- ① $(9,240 \text{百万円} + 12,840 \text{百万円}) / 46,000 \text{百万円 (修正後工事原価総額)} \times 100\% = 48\%$
- ② $50,000 \text{百万円 (工事収益総額)} \times 48\% - 10,500 \text{百万円 (既に計上した工事収益)} = 13,500 \text{百万円}$
- ⑧ $25,000 \text{百万円 (合計工事代金受取額)} - 24,000 \text{百万円 (工事収益の合計金額)} = 1,000 \text{百万円}$

(3) 20X3年度の各数字

- ① $(9,240 \text{百万円} + 12,840 \text{百万円} + 17,960 \text{百万円}) / 52,000 \text{百万円 (修正後工事原価総額)} \times 100\% = 77\%$
- ② $51,000 \text{百万円 (変更後工事収益総額)} \times 77\% - 24,000 \text{百万円 (既に計上した工事収益)} = 15,270 \text{百万円}$

④ 工事損失引当金繰入

	20X1年度	20X2年度	20X3年度	合計
工事収益	10,500百万円	13,500百万円	15,270百万円	39,270百万円
工事原価	9,240百万円	12,840百万円	17,960百万円	40,040百万円
工事損失引当金繰入	—	—	—	(差額)
工事利益	1,260百万円	660百万円	△2,690百万円	△1,000百万円

工事損失の合計額が1,000百万円になるように計算するため、差額の金額が230百万円となる。

- ⑦ $39,270 \text{百万円 (工事収益の合計額)} - 38,000 \text{百万円 (合計工事代金受取額)} = 1,270 \text{百万円}$

(4) 20X4年度の各数字

- ② $51,000 \text{百万円 (工事収益総額)} - 39,270 \text{百万円 (既に計上した工事収益)} = 11,730 \text{百万円}$

3. 工事損失引当金

(1) 要件

- ① 工事原価総額等が工事収益総額を超過する可能性が高いこと。
- ② その金額を合理的に見積ることができること。

(2) 計上額

超過すると見込まれた額 (工事損失) - 既に計上された損益の額

(3) 計上年度 (会計処理)

工事損失が見込まれた期の損失として処理する。

